

7. バヌアツ共和国

1) 政治・経済・民生の動向

ミュージカル「南太平洋」の舞台となったニューヘブリデス。1980年の独立の時に「バヌアツ共和国」（現地語で「われわれの土地」という意味）と改名する。快適な気候、美しい景色、純朴な島民・・・。

面積 土地は12,200km²（日本の3.2％） 海域は680,000km²

人口 15.8万人（90年）。70年の人口の2倍弱、年率3.2％で増加。

人種 メラネシア系が90％以上。その他英仏人、中国系、ベトナム系など。

宗教 キリスト教

首都 ポート・ビラ（エファテ島） 大小約80の島々から成る。

表1 島嶼別の面積と人口（1989年）

島名	面積	人口	人口密度	村落	地区
Banks/Torres	882km ²	5,985人	6.8人/km ²	71	180
Santo/Malo	4,248	25,542	6.0	370	513
Ambae/Maewo	699	10,945	15.7	196	449
Pentecost	499	11,336	22.7	266	401
Malakula	2,053	19,289	9.4	172	433
Ambrym	666	7,189	10.8	98	173
Paama	60	1,696	28.3	25	53
Epi	446	3,626	8.1	45	88
Shepherds	86	3,975	46.2	35	63
Efate	923	30,422	33.0	68	168
Tafea	1,627	22,414	13.8	362	712

農村		116,549 (81.8%)			
都市		25,870 (18.2%)			

計	12,190	142,419	11.7		

都市に含まれるのはPort Vila（Efate島）とLuganville（Santo島）だけ。各村落は、その広がりや人家の分布によって、さらにいくつかの地区にわかれている。全体で、地区の人口は、10－49人が53％あり、10人未満26％、50－99人13％、100－199人6％となっている。

担当：宮重俊一

独立 長らく英仏の共同統治下にあったが、1980年に独立。

政治 大統領を元首とする共和制。英連邦にも加盟。

イギリス、フランスとの関係はなお強いが、一方で外交関係の多角化を積極的に押し進めてきた。とくに南太平洋諸国、とくにメラネシア諸国との連携強化、非同盟主義の推進、ニューカレドニアなど各地の独立運動の支援、反核政策の推進を掲げている。

対バヌアツ政府開発援助は、オーストラリア、イギリスが大きな比率を占め、続いてフランス、そして日本、ニュージーランドなど。

経済 一人当たりのGNPは860ドル（1989年）。

経済は、自給自足的な農業と輸出向けのコプラの生産に基盤をおいてきた。最近は牛肉やココアの輸出が増加する傾向にある。

また、観光が外貨の獲得にきわめて重要になっている。1991年のvisitorsは76,807人であった（One-day visitor 37,259人 Long-term visitor 39,548人）。

GDPの内訳は、農、林、漁業が20.0%、工業が13.5%、サービス業が66.5%となっている（1990年）。農、林、漁業の内訳をみると、自給自足農業産物が38.9%を占めており、続いてコプラが31.2%、牛が13.2%、ココア5.7%、林業、木材が5.6%となっている（1990年）。GDP中、農、林、漁業の占める割合は1985年には30%あったが、1987年以降20%ほどで推移している。

貿易収支は大幅な赤字が続いている。

表2 輸出総額に占める各品目の割合

品目	1988	1989	1990
コプラ	46.1	29.3	27.2
ココア	5.7	6.8	11.3
牛肉	11.8	10.2	16.7
皮革	1.6	1.4	1.5
木材	5.1	8.0	4.1
貝	1.7	2.3	5.0
その他（カバ、コーヒー他）	3.4	5.0	7.3
（再輸出）	（ 24.6	37.0	27.1 ）
総額（百万USドル）	19.9	22.3	18.7
輸入（百万USドル）	71.0	72.9	95.8

民生 安定している。

2) 農林業動向

(1)位置と気象

ソロモン諸島の南東。南緯12度－21度、東経166度－171度。

北部は熱帯、南部は亜熱帯に属し、海洋に囲まれてきわめて穏やか。12月から4月にかけてサイクロンがくる。

表3 ポートビラの気候

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温℃	26	26	26	25	24	23	22	22	23	24	25	26
降水量 mm	247	241	351	213	145	134	117	80	149	91	139	180

(2)土地利用

島々は、パプアニューギニアからソロモン諸島をへてニュージーランドに至る火山帯のうえに位置しており、爆発を繰り返している活火山もいくつかある。大小80以上の島々があり、このうち67の島々に人々が住んでいる。小さな島では水の確保が問題。なかには雨期だけ天水を利用して島で暮らし、乾期には対岸の大きな島に移動するかあるいは毎日カヌーで水を運んで生活している人々もいる。国土は耕地11.8%、草地2.1%、林地75.0%その他11.2%(1990年版)

土地の権利は、それまで論争があったが、独立時に、全ての土地は慣習的に所有し、利用してきた人々あるいは彼らの子孫に権利があると、憲法に明記されるに至った。独立以前に入植していた人々や、あらたに入植したい人々はこれらの人々から貸与を受ける形となった。

(3)農業生産

人口のほとんどが農村にすみ、農業に関係していることから明らかなとおり、この国も農業に基盤をおいている。やはり、食料作物の生産が中心であるが、換金作物の生産も拡大してきている。

①いも類（タロ、ヤム、甘藷、キャッサバ）

計（／人）	
1970年	29千ト (345kg)
1980年	32 (271)
1990年	40 (253)

②穀類ではトウモロコシがわずかに栽培されているだけ。

こめは消費が増えているが、栽培はほとんどない。

③コブラ

最も輸出額の多い産品。世界の貿易量の10%を占めている（86－90年の平均で）。これはフィリピン（31%）、パプアニューギニア（24%）に次いで多く、さらにソロモン諸島（9%）、マレーシア（9%）が続く。

	輸出	小農	農園
1980年	26,732トン	トン	トン
1982年	34,798		
1984年	46,682		
1986年	42,293		
1988年	31,681	22,732	6,826
1990年	37,246	39,396	5,676

④ココア

最近になって急速に増加。

	輸出	小農	農園
1980年	366トン	578トン	145トン
1982年	776	417	111
1984年	681	634	148
1986年	588	1,000	258
1988年	1,011	612	144
1990年	1,217	1,658	514

⑤カバ

伝統的な作物で、国内にかなりの市場があるが、正確なデータはない。

輸出は、1988年 14トン 1990年 43トン。薬品や飲料に。

⑥コーヒー

輸出は、1988年 19トン 1990年 37トン。

⑦肉牛

牛肉と子牛肉の輸出は最近、急速に増加。

3/4以上が日本への輸出。ニッチクが大規模な牧場を経営。農民に対しては4歳以下でと体（枝肉）の重量が260kg以上という条件が示されている（去勢牛肉）。これに満たないものは単価が安くなる。自然草地ではこれだけの発育を達成するのは難しく、改良草地の導入が必要とのことであった。こうした条件はだんだん厳しくなっているという。

エファテ島では、大規模な牧場があちこちでみられる（open pastures、under coconut

trees)。うしを飼おうとする農家は、ブッシュナイフで森林を切り開き、木を切って牧柵をつくり、バラ線を買って張り巡らすなど、大変な労力と資金が必要である。小農による出荷は最近、増加してきている。エファテ島ではまだ少ないが、サント島ではと場にでてくるうしの約半数にまで増加。他の島でも増えている。

	輸出	と殺	生産
		頭	トン
1980年	723トン		
1982年	548	11,939	1,940
1984年	791	12,582	2,246
1986年	1,197	11,910	2,008
1988年	813	14,563	2,647
1990年	1,956	14,450	3,026

⑧乳牛

乳牛の飼育はEfate島にみられるだけで、Port Vilaの市場に出荷しているだけ。生産、販売とも順調に増加している。

	生産	販売		
		ミルク	クリーム	—
1986年	153.3千リットル	80.4		
1988年	210.0	68.3		7.7
1990年	287.2	82.5		12.6

⑨ぶた

いわゆるvillage pigsの頭数は、5万6千頭（1989年）。1戸当たり2.5頭。1989年の調査より減少。ぶたはメラネシアの人々にとって伝統行事に使われる重要な動物。村民のたんぱく源としても重要。

コマーシャル養豚はエファテ島でみられる。1989年のと殺頭数は1,085頭、と体重量が45.9トン。輸入あり。

⑩とり

いわゆるVillage chickensの羽数は、30万8千羽（1989年）。1戸当たり13.5羽。1989年の調査より増加。村民の重要なたんぱく源。

コマーシャル養鶏による生産は、肉が172.4トン、卵が230,445ダース（1989年）。輸入あり。

⑪ひつじ

国内の消費の約2/3を生産。残りを輸入。

総世帯数のうちそれぞれ次の作物／家畜を栽培／飼育している世帯の割合は次の通りとなる。

	ココナツ	ココア	カバ	コーヒー	うし
農村	71%	35%	27%	2%	44%
都市	9	3	3	0	5

パヌアツにおける人々の生活状況をみると（1989年の調査結果）、農村部では、水は、タンク（共同及び個人）に貯めたものを利用している家庭が最も多く、次いで、共同水道や河川、井戸などの利用が多い。料理のための燃料は、薪やココナツの殻を使っている家庭がほとんどとなっている。また、あかりには、ほとんどの家庭で灯油を使っている。

表4 パヌアツの生活調査(1989年)

	農村	都市
全世帯数	22,772	5,480
水道		
自家水道	5.6%	51.8%
共同水道	17.7	31.7
村内水道	5.1	0.3
自家水槽	15.2	8.9
共同水槽	18.0	3.0
河川	15.3	0.5
湧水	7.2	0.2
井戸	14.4	1.0
燃料		
たき木/ココナツ殻	94.0%	28.6%
薪炭	0.5	0.3
灯油	0.6	3.0
ガス	4.2	64.7
電気	0.1	0.5
灯火		
たき木/ココナツ殻	5.8%	0.8%
灯油	86.9	46.4
ガス	0.3	1.0
電気	5.5	48.6

3) 農林業技術動向

状況はソロモン諸島と同じ。

農家の生産活動は、生活に必要な食料の生産と、販売を目的とした作物の生産に分けられる。農民はブッシュナイフと火入れによって切り開いた土地で食料作物（いも類のほかいろいろな作物）を栽培し（移動耕作）、一方で、ココナッツや、より少ないがココアを生産してきた。最近では人口の増加とcash cropsの生産の拡大から休閑の期間が短くなり、土壌の肥沃度の低下や、一部では土地の荒廃も進行しているという。

4) 国立農業研究機関(NARS)の現況

農畜林水産省、農業園芸局

Economics

Extension

Quarantine

Training and Information

Horticulture（近いうちにあるという）

独立した研究部門はないが、研究活動は局長が直接、統括しており、研究レポート等は局長に直接、提出される。

Tagabe Experimental Station (Port Vilaから約5km)

Senior Agronomist (フランス人)のもと、総勢4名のチームがあり、研究を推進。

地域の自然条件に適した品種の育成と、新しい作物の開発を目的としている。いも、野菜、果樹のほか、ペパー、バニラ、カバなど。

それからCIRADの研究センターがサント島にある。

IRHO (Institut de recherches pour les huiles et oleagineux)

ココナッツの研究を実施。

IRCC (Institut de recherches du cafe, du cacao et autres plantes simulantes)

コーヒーおよびココアの研究を実施。

なお、CIRADは、いわばフランスの熱帯農業研究センターで、その下に10の部門がある。すなわち、IRAT (food crops)、IRFA (fruits)、IRHO (oil crops)、IRCC (coffee, cocoa)、IRCT (cotton)、IRCA (rubber)、CTFT (wood and forestry)、IEMVT (livestock production, veterinary medicine)、CIRAD-SAR (rural systems, food technology)、GERDAT (management, services, documentation)

アフリカ、アジア、太平洋地域およびラテンアメリカの65カ国と協力。スタッフ数は、Senior staff (海外) 593人、他のstaff (海外) 292人、Senior staff (フランス) 439人、他

のstaff（フランス）611人、Associate staff（海外、フランス）1000人。

畜産局は最近、独立。次の部門がある。

Animai Health

Animal Production

Animal Healthの部門では、家畜検疫、臨床業務、病気対策、食肉検査にかかわる業務を遂行。

Animal Productionの部門では、肉牛、乳牛、ぶた、とり、ひつじの生産、繁殖育成牧場、種畜供給センター、Smallholder Cattle Project、Artificial Insemination Project、Vanuatu Pasture Improvement Project（オーストラリア AIDAB 1993年まで／草地改良、放牧管理などに関する研究、調査、普及、訓練などを実施）などを遂行。

5) 国際協力の現況

上述。

6) 研究ニーズ

- ① 基本食料の生産の安定、拡大
- ② 農業生産の多様化
- ③ 土壌の保全、肥沃化
- ④ 農業技術の普及

7) 共同研究への戦略的アプローチ

ソロモン諸島と同じ

8) 共同研究実施上の問題点

- ① 地域別にみてオセアニアのpriorityが低い。
- ② ソロモン諸島と違って、マラリアに感染する心配は少ない。少なくともポートビラではない。
- ③ 研究活動が限られている。分野も限られているが、その内容も普及を前提とした活動が中心。
- ④ ポートビラの生活は、小さな町のこと故単調ではあるが、美しい自然があり、マリンレジャーも楽しめ、気持ちよく過ごすことができるだろう。町および島内は安全。

9) 共同研究への展望

展望を探るとすれば、やはりソロモン諸島と同じことが言える。